

上位標目:第九期新生アルカ概説

比較:イントネーション\_na14

イントネーション2008/10/12 (日) 23:12:54のコピー

アルカは動詞が中心となり、それぞれの格詞節が支配される。  
動詞：格詞という構図以外には、被修飾語：修飾語という構図がある。  
覚えることは少ないが、制アルカよりは複雑である。

特に動詞 + 目的語のイントネーションが難しくなった。  
これはいたずらに難しくしたものではなく、喋りやすさなどを考慮して発達したものである。  
事実、言語使用に際して生まれたイントネーションである。

原理的には、内容語はアクセントが強く高く、機能語は低く弱い。

1:動詞 + 目的語

中(siina) 強(dilt)のパターン。  
siina dilt (ほうれんそうが好き)

2:動詞 + 副詞 (+ 目的語)

中(axt) 弱(flen)のパターン。  
axt flen (書いて良い)

3:動詞 + 従属節 (= 格詞節)

弱(lo) 中(la)のパターン。微かなポーズも置く。  
an lo la luna sil (彼が来ると思う)

4:名詞 + 形容詞

中(fian) 中(ank)のパターン。  
fian ank (可愛い女の子)

5:名詞 + 形容節

中(fian) 弱(le)のパターン。  
fian le til oma (犬を飼ってる女の子)

6:前置形容詞 + 名詞

弱(tu) 中(felka)のパターン。  
tu felka (この学校)

7:格詞や接続詞は弱い

a non (私に)  
lot tu fia (この世界で)  
miik az lisik (リンゴかミカンか)

8:純詞は文頭が強く、文末が弱い

kit(強), an leev ax (まず私は去った方がいい)  
la leeves in(弱) (彼女は去ったようだ)

9:人名

1と同じ。  
lein(中) yutia(強)

動詞と目的語の繋がりは1～3の3種類ある。  
動詞と目的語の繋がりの強さは、統語的にみて1>2>3である。

この統語的な観点をイントネーションは実に巧く表現している。  
最も繋がりの強い1は人名と同じである。名前と名字は極めて繋がりが強い。1は人名と同じなので、繋がりの強さが分かる。

3の場合、目的語は節全体であって、従属節の主語だけではない。  
従って、従属節の主語でしかないIIaと動詞の繋がりは弱い。  
その繋がりを表したイントネーションが3である。

音声はこちら。  
<http://cid-828123c266adb696.skydrive.live.com/self.aspx/arka02/afi.mp3>

上位標目:[第九期新生アルカ概説](#)  
比較:[イントネーション\\_na14](#)